



いとう



海援隊旗(二隻きの旗)

<http://www.ryoma-kinenkan.jp>

# 起 死 KISI KAISEI 回 生

今年は龍馬生誕180年、戦後70年

## “平成の幕末”揺れる世情の中で

### 渾身の四企画展 現代へのヒント探る



慶応元年(1865)閏5月11日、半平太は切腹、以蔵は斬首され一生を終え

**龍馬の同志**  
「以蔵と半平太・没後百五十年展」  
6月27日(土)～10月2日(金)

幕末の混乱期、多くの志士たちが命を落とした。が、その「関門」を潜り抜けた者もいる。ただ、新時代を迎えたとはいえない生きた道筋はそれぞれである。今回は、幕末後新政府にはいらず、己の生き方をした志士たちを追ってみたい。2ページに特集を組んだ。(亀尾)

**維新を生き延びた男たち**  
「志士たちの明治展」  
4月1日(水)～6月26日(金)

この騒々しさは何事か?と思えるほどにめまぐるしい日常の変化である。中東のイスラム問題、ウクライナ紛争のニュースが瞬時に世界を駆け巡る。日本国内でも政治、経済、社会どの分野にも安定、安心の言葉は見られない。芯が揺れている。国民は何を信じて、どう行動すればいいのか落ち着かない。まさに「平成の幕末」である。折しも今年「龍馬生誕180年」の節目にあたる。龍馬記念館は平成27年度の4本の企画展に精一杯の「幕末」を乗り切るヒントを込めて企画した。是非ともご覧ください。(森)

時代の風雲児「龍馬」を語る際、欠かせないのが家族の存在である。龍馬が命を大切にする命にこだわる

**龍馬のよき理解者**  
「家族の絆展」  
10月3日(土)～  
2016年1月22日(金)

た。新しき時代を夢見た土佐勤王党の党首とその手足となつて働いた部下である。二年で消えた夢がその二年後、形になっていく。時代は多くの犠牲を求める。この企画展では半平太の思い、以蔵が果たした役割。さらに、人柄についても追る。半平太、以蔵を通じてこれまでに見えてくるはずである。(三浦)

幕末。江戸の徳川幕府のたがが緩み始めるとともに、朝廷のおわす京都が一挙に騒がしくなってきた。外国の圧力も絡むそれぞれの思惑がぶつかり合う。華やかな都の雰囲気や殺伐の風が不安を募らせていく。京都藩邸の土佐の侍たちは、この異常な状態をどうとらえていたのか、史料から解読したい。(亀尾)

**激動の時代**  
「藩邸史料にみる幕末の京都展」  
1月23日(土)～3月31日(木)

根本にあるのは、ほかならぬ家族からの発信であり、それぞれの生き様だと思ふ。しかし、龍馬の家族について乙女姉さん以外はあまり知られていない。そこで、今回は龍馬がどんな逆境に置かれた場合でも、叱咤し激励し信頼し続けていく坂本家にスポットを当て「家族の絆」の大切さを追う。現代にも通じるヒントが隠されていると思う。(前田)



飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう!

視聴方法は簡単!

- ① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード
- ② アプリを起動し マークのついた写真にスマホをかざす

※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。  
※本コンテンツは2015年6月30日まで閲覧可能です。



龍馬生誕180年企画

4月1日(水) 6月26日(金)

維新を生き延びた男たち

「志士たちの明治」展

「光当たらぬ人物に光を」

土佐の志士は、武市半平太や坂本龍馬、中岡慎太郎ら、主要な人物が早くに没したといえ、生き延びて明治を迎えた者も少なくない。しかしその多くは、残された資料も少なく、履歴すらも不明で、ほぼ無名といっている。勤王盟約に名を連ねた人々でさえ、名前しか分からない者がほとんどであるなか、そもそも生き延びた志士の実数を把握することも困難である。彼らは戊辰戦争を経験したのち、大抵は新政府に出仕するが、職を辞す者、地方官などを勤め目立たずに終わった者も多し。また、公家に仕える、自由民権運動やその反対運動に身を投じる、不幸にも早世するなど、後半生もさまざまである。田中光頭や土方久元のように大臣を務め、爵位を得るなど、華やかな道を歩んだ者は、土佐では薩長に比べわずかである。今回の展示は、そうした世に知られない人々に光を当て、展示を通じて新たな資料が見つかる、新たな事実が判明することで、研究が進展することを願って企画した。

軸となるのは2人の郷土

展示の軸となるのは、大石弥太郎(圓)と大石団蔵、2人の郷土である。いずれも土佐の幕末では著名な部類に入るが、大石弥太郎は勤王盟約文を草したこと知られる、勤王党の大物である。武市半平太ら

が弾圧を受けた際、自身は投獄を免れ、獄外から赦免運動をおこなった。戊辰戦争後は、長州から逃れてきた富永有隣をかくまい逮捕され、投獄されている。のち、民権運動に対抗する一派、古勤王党の中心人物となり、大正5年まで生きた。一方、大石団蔵は、那須信吾

安岡嘉助とともに吉田東洋を暗殺して逃亡した人物である。他の2人は天誅組拳兵に加わり死亡したが、団蔵はひとり高見弥市と名を変え、薩摩藩に仕えることとなる。そこで、薩摩が英

陸援隊の一員として活動した大橋慎、海援隊で龍馬の片腕であった長岡謙吉、勤王党とは一線を画し、独自に活動した樋口真吉らの資料を展示する。また、龍馬の兄嫁の弟で、明治になって古勤王党として運動した川原塚茂太郎、勤王党の獄で島村寿之助らとともに投獄され、のち赦されて戊辰戦争に従軍するも、会津の戦いで没した安岡覚之助らの生涯も、パネルで紹介する。

生き延びた彼らの人生

今回の展示で紹介できる志士はごく一部である。しかし、生き延びて長命した志士たちは、その境遇に差はあれ、時代が変わっても死んでいった同志を偲んで慰霊祭を行い、顕彰をし、遺墨を集め、維新を記録にとどめる活動に熱心であった。言うまでもなく、田中光頭らがその筆頭である。彼らの活動は、自分自身、ひいては明治維新における土佐の功績をアピールする目的もあったが、維新を見ることなく若い命を散らした多くの仲間たちに対する深い思いもあった。このように生き延びた彼らの、明治・大正・昭和に至る人生まで含めて考えなければ、土佐の維新史は完結しないといえる。



高見弥市(大石団蔵) [高見長臣氏蔵] 慶応2年、ロンドン留学時に撮影。断髪にネクタイ姿。

志士の明治期の資料は思った以上に少なく、展示は思うに任せない部分が多いが、「幕末で名前を見かけるあの人は、維新後どうなっただろう?」といった素朴な観点から、展示をご覧いただければ幸いである。

亀尾美香



大石弥太郎肖像画 (公文菊徳筆・香南市教育委員会蔵) 龍馬や半平太などの肖像画を手がけた公文菊徳の筆。戊辰戦争時の写真をもとに描かれている。

東吉野村エッセイ②

村に残る天誅組の足跡



奈良県東吉野村 教育委員会 教育長 峠 隆司

初めて出会った方と名刺交換を行う際、多くの方から「めずらしい名前ですね。峠という名字は、そちらの地域では多いのですか。」という会話から始まる。 「東吉野村一ノ谷から、吉野町小名に抜ける時に一軒家があり、そこで父は生まれそして育ちました。それで、峠という名字になったのでしょうか。」と答える。

昭和37年、私が小学校五年生頃までは、従兄弟がいるその家まで、友達と一緒に遊びに行っていたことを、今でも覚えている。 今から152年前、文久3年9月24日の夜、その一軒家(当時は、数軒あったようだが)の近くにある柴小屋で、傷養生をしていた一人の青年がいた。



翌25日、紀州藩に捕らわれの身となり、後に京都に送られ、元治元年2月16日、京都六角の獄舎で斬殺された、高知県安芸郡羽村(室戸市)出身、島村省吾である。 青年は、安政6年、15歳で京都に出る。 佐藩邸に勤め、19歳の時代の風雲を感じ、同志とともに天誅組の大和義拳に参加して、尊王攘夷の先鋒となった。その時参戦した土佐藩士の中で最年少であった。現在その一軒家の辺りには、その後多くの杉の木が植えられており、当時の面影はなく、無論隠れていたとされる柴小屋の場所も、どのあたりかは定かではない。

驚き口の決戦において、忠光卿の本隊と共に切り抜けた時に、かなりの深傷を負っている。 それでも、大和行幸の先駆けになるという強い思いを胸に、急峻な山道を少しづつ少しづつ息も絶え絶えに、私が子どもの頃、何度も登った約4kmの山道を、這うように登っていったのだらうか。 今も、その足跡が残っている。

龍馬をもっと知って

教科書にない話も コーモア交えて2時限

当館では、以前に学芸専門員として勤務されていた有安文昌先生に依頼して、県内の幼小中高校で「坂本龍馬」の出前授業をおこなっている。2月26日、高知市の介良潮見台小学校でおこなわれた出前授業の様子を見学させていただきました。



龍馬とお龍姿の有安先生夫妻の「講義」

子ども達がわくわくしながら見つめる先に、龍馬の格好をした有安先生。その隣には、乙女姉さん?それともお龍さん?こちらも着物姿のお龍さんが。ご夫婦で年間約30校を回られている。有安先生の説明に合わせて奥様がイラスト等を貼り出していき、お二人の息はぴたり。それが授業に心地よいテンポを生み出している。奥様がさつと竹竿を取り出し、その先にイラストの龍馬を吊り下げた。龍馬と乙女の水練の場面である。有安先生曰く「歴史は追及していくと面白いが、学校の授業時間は限られているので深い話ができな

い。出前授業は子ども達に興味を持ってもらうために、様々なエピソードを交えながら進められていく。今回の出前授業は45分×2時限。授業時間に合わせて内容も変えていく。休み時間に子ども達に感想を聞いてみると「知っちゃう話もあるけど、知らない話も聞けて面白いです」という答えが返ってきた。歴史の教科書で龍馬が出てくるのは1、2行しかないと思う。 「これから県外へと出て行く高知の子ども達に坂本龍馬が何をしたらか知って欲しい」という奥様がお話してくださった。これは当館にとって

尾崎由紀

# 設計の楽しさ、発見が広がる世界はまさに龍馬の人生



高橋 晶子

いよいよ龍馬記念館リニューアルの設計が始まりました。設計者の一員として再び記念館に関われる機会をいただき、心から嬉しく思います。

四半世紀前、記念館の公開設計競技に参加した私は当選を機に独立、龍馬が暗殺された年齢と同じ33歳で開館を迎えました。地元有志の募金で建った記念館は建設運動そのものが目的でもありませんでしたが、当初は展示するものが乏しい状況でした。館長はじめ関係者の皆様の大変なご苦労が現在の記念館に宿っています。

昨秋リニューアルのプロポーザルが公示され、新館が歴史資料を保存・展示する博物館になることが明確に読み取れました。そこで、沖縄県博の設計者・石本建築事務所と高知の実力派・若竹まちづくり

研究所にお声掛けして設計チームを組み、限られた時間のなかで濃密な共同を行いました。私の事務所だけで考えていた案が、共同を始めた途端に劇的に変わり良い方向に転がっていったという実感があります。設計して面白く感じると同時に、面白く感じてもらいたいという思いも強まりました。発見は自分自身を広げたり、未知なる人や世界と新しく繋がったりするきっかけを作ってくれます。そんな体験は専門領域を超えて存在し、人間の生きてゆく力の源になっていくのではないのでしょうか。龍馬が親しまれる理由のひとつは、発見に満ちた人生を鮮やかに生きたことだと思います。

でも発見だけで設計は出来ませんので、闘志を秘め日本の夜明けを思い続けた志士のように、粘り強く取り組みたいと思います。

## 動き出したリニューアル構想

今年の1月からリニューアルは新たな段階に進んだ。昨年11月に建築と展示について、プロポーザル方式（企業に企画を提案してもらう方式）で選定が行われた。建築は、大阪市の株式会社石本建築事務所と横浜市の有限会社ワークステーション、高知市の株式会社若竹まちづくり研究所による共同企業体。展示は株式会社丹青社に決まった。



熱心な議論が続く（桂浜荘・会議室）

互いに深く踏み込んだ意見交換  
建築と展示の業者が決まったことにより、1月に初めて基本設計作成に向けた合同会議を行い、今後も月一回程度、合同会議を行う予定だ。その間、個別には建築・展示について、各企業と連絡を密にして、細部を詰めていく。

建築の共同企業体に、ワークステーションが入っているのは大変心強い。この会社は、既存館を設計してくださった高橋晶子氏夫妻の会社である。当館の良い所も足りない所も一番よく知っている方が新館を手掛けてくださる。館長を始め学芸員たちとのコミュニケーションも十分なので、互いに深く踏み込んだ所まで意見交換ができる。博物館に限ったことではないと思うが、大きな仕事を行う上

で、円滑な人間関係は最も重要な要素だと思う。館のことを何も知らない人や、互いに初めて会う者同士より、はるかに良い仕事ができるはずだ。

高橋さん曰く、「やんちゃなお兄さん（既存館）に対して、しっかり者の弟（新館）」というイメージだそう。坂本家は、しっかり者の権平兄さんに対して、やんちゃな弟の龍馬なので、館は逆になるが、必ず良い建物が出来ると信じている。

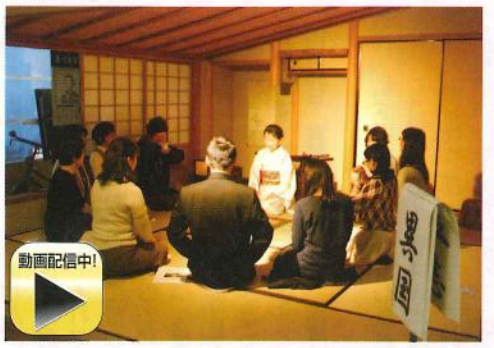
### 完璧な建物を目指して

展示については、新館では落ち着いて資料をご覧いただき、龍馬の業績や考え方、歴史上での位置づけが理解できるように展示を目指す。既存館は、映像や体験型の展示を多く導入し、低年齢の方から大人まで楽しんで学べる展示を目指す。

工事の着工は、既存館・新館ともに平成28年度中の予定。既存館の改修工事が始まると、当館は8ヶ月程の休館を余儀なくされるため、その間、ご迷惑をお掛けすることになる。オープンについては、既存館は平成29年度を目指している。平成29年11月には龍馬暗殺150年、翌年は明治維新150年という節目を迎えるため、残された時間は少ないが、完璧な建物を目指していきたい。

三浦 夏樹

## 「胸の中で龍馬が踊る」お香とお話を聞く会 3月に開催



お香は聞くのです

馬にちなんで「立志、峠、異国、八策、お龍、それから」という六つの香を用意してくださった。参加者も実際にその六包の香を聞いた。

お龍も聞いていたという香とはどんなものか。参加者は初めての方も多く、私も含めて興味津々だった。香を聞く。つまり香道とは、香木の香りそのものを、五感を澄まして鑑賞することだった。決して堅苦しいものではなく、自由に自分の感覚でお香の世界を楽しむことができた。

「お話」は、3月末まで紹介していた坂本直道や龍馬のことなど。

お香とお話を、参加者は一体になって楽しんだ。

今後も「古心流」のご協力をいただき、「お香とお話を聞く会」を開催していく予定である。龍馬やお龍にもゆかりの香を聞きながら、学芸員やゲストが折々の話題を提供するというものだ。

どなたでもお気軽にご参加ください。

前田 由紀枝

## トトロの森で出前授業

学芸員の視点

埼玉の中学3年・受験生に龍馬からのエール



前田 由紀枝



メモをとりながら熱心に聞く南陵中生

龍馬の手紙が見つかったテレビ番組は全校が見たと聞いていた。常々その重要性を含め龍馬自身の紹介をさせていた。きたいと思っていたところ、その機会が訪れた。3年生全クラスへの出前授業である。

晴れた日には富士山とトトロの森が見えるという校庭は雪に隠れ、雨雪が降っていた。寒い体育館で、ジャージ姿の彼らはしっかりと耳を傾けてくれた。

この日のテーマは『龍馬からのメッセージ』。高校受験を控えた3年生215人に向け、私は龍馬に代わって「夢を持って、あきらめずにやっつけていく」この大切さを伝えた。

「海援隊リーダーだった龍馬の5つの決まりにすごく感動しました。責任はすべてリーダーがとる。仲間を認める。助け合っていく。仲間や友達を大切にすること。これは、これから先、生きていくなかでも大事な。また、命がけで生きる」という言葉。死ぬのではなく、夢を追いつつ、今の時間を一生懸命生きる。この言葉は私の胸に響きました。

「秦先生の手紙が本当に重要なものだと知った」という感想もあり、「今回聞いていない他の学年にも聞かせたい」という同校での授業を、近いうちに実現したいと思っている。

坂本龍馬を知らない日本人はほとんどいないだろうが、どんな人で、何をしたのか。何を残し、今に何を伝えていくのか。知らない人は多い。各地での出前授業を通じて、龍馬を伝えるとともに、私自身が新たな龍馬を発見している。

飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう！ 視聴方法は簡単！

① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード  
② アプリを起動し、マークのついた写真にスマホをかざす

※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。  
※本コンテンツは2015年6月30日まで閲覧可能です。

# 拜啓 龍馬 殿

93通

平成26年12月21日〜平成27年3月20日

私50才。三人の子をあなたゆかりの地・近江(滋賀)で育てました。生まれは横須賀で



父を亡くした13才の時から母の実家高知で過ごしました。幼い頃から父母は、まるで親戚のおんちゃんのように龍馬さんのことを話していました。「鏡川で卒にくらり泳ぎよった」と。20才で高知を離れてから福岡や長崎で暮らし、青い海を探しましたが、やっぱりここにしかありません。長男を里帰り出産したのは、あなたの生誕地の目と鼻の先。それから30年近く経っても、永遠に変わらぬのはこの海とあなたの志なのです。今日は足腰の弱った母と、家族も一緒です。長女はオランダにいます。いつもありがとうございます。又、逢いに来ますね  
(12月30日 滋賀 S・Y 50歳 女性)



私は肥後から参りました者でございます。私は坂本龍馬様と高杉晋作様にあこがれております。いわゆる現代語でファンというか、超ファンというか、ギガファンです！龍馬のようにやさしく、晋ちゃんのように激しく、桂さんのようにイケメンになりました。今日屋上で「日本の夜明けせよ」と叫びました！気持ち良かったぞ。

今年、広島には黒田が帰って来ます。おそれながら、龍馬さんに例えさせてください。志を抱き、海を渡り、その後、志を終結させるために生きて帰って来る、といったようなものでしょうか。私達は黒田復讐に涙を流し、感動し、また次のステージへの期待に胸をふくらませていきます。おそらく龍馬さんもこの地においてそうだったのだと思います。どうか龍馬さん、あなたの志を持って黒田のことを天よりお見守りください。私たちも力いっぱい応援します。  
(2月13日 広島 無記名)



龍馬ママに会いに初高知へ。やっと会いに来れました。なんと今日はバレンタイン。あなたの見た桂浜。今日私も見る事ができました。  
(2月14日 千葉 N・D 53歳 女性)



はじめまして。今日は高校の同級生とお互いの母親同伴でやって来ました。母も85歳になり、10年後はどうなっているか解りませんが、こうして元気に旅行ができることに感謝しています。私はあなたのように国を思い行動を起こすほどの情熱も行動力もありませんが、可愛い姪や甥のために、これからの子ども達の将来のためににも健全な国にしていきたいと思ひ、出来るだけ助け合ひ、声掛け合ひ、自然を大切に、物を大切

かっただけよー!!  
(12月29日 熊本 K・O 27歳 男性)



あの時代から今何年経ったのでしょうか。同じようにこの太平洋を見つめて、ゆれ動くこの2014年、龍馬様が願った平和な世の中がまだ実現していません。龍馬様、この時代に生きる人々に力を、夢を与え続けてくださって本当にありがとうございます。真っ直ぐにこの海を見つめて必ず平和な世界になるようにがんばっていきましょう。  
(12月30日 高知 S・I 55歳 女性)



現在の世に龍馬様が生きていて政治改革をしていたらどうしたいか。自己中心の政治家を正したい。思いやりを欠いた政治家ばかり。それがひいては庶民にも広がっている。おもてなしの心は第一に相手を思いやることから始まると思う。  
(1月1日 京都 T・T 81歳 女性)



撮影の仕事で、永年のあこがれの龍馬さんの故郷へ来ることができました。司馬さんの「龍馬がゆく」は僕のバイブルで、年に数回は必ず読み返す本で

切にしています。10年後が明るい未来につながっていることを祈ります。  
(2月14日 東京 Y・I 59歳 女性)



龍馬に会いたくて、北海道からはるばる来ました。今の日本はあるの龍馬のおかげ！そして今龍馬が生きていたら昔と同じようにモテモテだったと思います。明日は城西館に泊まります。「龍馬」をたくさん見て帰ります。大好き。  
(2月21日 北海道 K・I 24歳 女性)



今日ははじめて龍馬の字で名刺を作りました。なんだか自分が龍馬になれたような気がしました。龍馬の口ぐせは「せよ！」ですが、それを知らず、最近私も「今日のカレーおいしいぜよ!!」とお母さんに言ったりして、なんだかとても優しい気持ちになりました。龍馬さん、お元気ですか？私は元気です。だってカレーが大好きだから。龍馬さんもカレーは好きですか？私は甘口が好きです。でも中辛も好きです。ぜよ。  
(2月22日 無記名 8歳)



今日は三番目の息子(蒼真)との男一人旅。蒼真も今年で中学生。しっかりとしたやさしい男の子になりました。あなたと一字違いの男の子、あなたのように友達を大切に出来る人になっていきます。  
(2月22日 広島 K・Y 41歳 男性)

龍馬さんのように、柔軟で、かつ大胆な面白い人生を送りたいと、龍馬さんの年を超えた今でも思っています。来て良かった。  
(1月14日 神奈川 J・N 39歳 男性)



龍馬さんは今の日本に必要な人だと思えます。今回は2回目の訪問で、前回の感覚とはまた違ったものでした。中学校での龍馬の学習を通して、龍馬のことをたくさん知ることができ、もう一度記念館に来たいと思うようになりました。前回まではいなかった「シエイクハンド龍馬像」を握手することができました。やはり龍馬さんの手は大きく、力強さを感じました。3月の高校入試が終わってから、もう一度ここに帰ってきます。  
(1月19日 高知 M・T 15歳)



今、日本も世界も龍馬さんが望んでいたのとは違っている方向に動いているようです。考え方や思想や信仰が違う者同士は仲良く共存することはできないのでしょうか。「強い」者と同じでなければ、批判や偏見を持たれ、「弱い」者たちは過激な思想で結びつかない世の中です。「強い」者に意見すれば、テロリスト呼ばわりです。理想だけでは生きていけないけど、理想を持ち、志を持って前に進むことが「キレイゴト」であり、「自己責任」で片づけられる。どこを見て、どう生きればいいんでしょうか。もっとみんなが夢や理想を持って生きられる時が来ますように。少しでも力を貸し



今の日本は「沈みゆく豪華客船」と言えます。帆を失い、自ら羅針盤を手放した船長は我が身を案じて逃げ惑い、縦横無尽に激しく波に遊ばれ、揺られています。龍馬様がお存命でした当時の日本と似ているかもしれません。今の時代にあなたのような人物は現れておりません。なので私がおの意思を受け継いでいこうと思ひます。  
(3月1日 大阪 H・N 21歳 男性)



夫と二人で龍馬さんを思う。う。私たちの子ども達もそれぞれが社会人として巣立って行きました。自分達の子育てを思うと反省する事大なり。龍馬さん、あなたが生きて子どもを育てていたならば、どんな父親だったのでしょうか。知りたいな、のぞいてみたいな。そんな風に思ひます。  
(3月1日 高知市 M・T 56歳 女性)

\*\*\*編集者より\*\*\*  
今世界中で思わず耳を覆いたくなるような出来事が起こっています。日本も例外ではありません。今回の拜啓龍馬殿には、ただ漠然と「龍馬に世直しを欲しい」と願うのではなく、平和な世を願ひ、各々がより具体的に行動を起こさなければという意思を感じます。それだけ時代が混乱していることと表れですが、確実に「未来の龍馬」が育ってきているのを感じます。  
尾崎 由紀



浦戸大橋近くを駆け抜けるランナー

疾風の如くに

「こは中間地点ですから、先頭は10時過ぎには来るでしょう。それに川内選手がいますから」。そう、2月15日(日)高知市で行われた「第三回高知龍馬マラソン」の当日、コース点検をしていた係員の話である。つまり「こ」とは浦戸湾河口に架かる「浦戸大橋」。「川内選手」とは埼玉県庁の公務員ランナー、川内優輝選手である。川内選手は日本の異色のトップランナーの一人として知られている。その、全力走の姿が見る人を感動させる。チャレンジ精神がたまらない。今回マラソンの最大の難所が浦戸大橋だ。全長1.5キロ、高さは50メートル。橋の東からのコースだから1,000メートルは急こう配の上り坂となる。まさに心臓破りの難所。脚力、体力が備わっていないと越えられない。それにランナー自らの計算ができないと大橋は越えても後半が続きにくいことになる。全コースに前日コーンが並べられた。浦戸大橋は午前9時過ぎから正午過ぎまで通行止めの交通規制がかかった。

## ここは館長の部屋 森 健志郎

私は、午前9時50分に大橋のもとで待機した。北側から急坂を駆けあがって来たランナーは頂点に立つと眼下に水平線の太平洋が広がる。ここまでの苦勞も一瞬のうちに吹き飛ば絶景。「先頭が橋にかかりました」。予告通り先触れの連絡が入った。先導の白バイが見えた。「来たぞー」と思う間もなく、選手の間が見えた。二人だ。見る間に近づいてくる。靴音が聞え、顔が見えた。一人はやっぱり川内選手であった。もう一人は分からない。下り坂道を二人は肩を並べるように風を巻いて駆け下って行く。ほんの一瞬、「はっはっ」とリズムを刻む呼吸音が確かに聞こえた。顔には汗が光っていた。しかし、早い。私の全力疾走よりも早い。「がんばれー」もう後ろ姿の二人に声援を送った。後続はしばらく現れなかった。それだけ、先頭が早かったということだろう。やがて大橋はランナーでいっぱいになった。花街道はランナーの鎮状態。言葉を交わしながら、海を背景に写真を撮りあいながらのグループも。沿道の応援は切れ目なし。6,500人が完走した。そして、もちろん1位は川内選手であった。テレビの川内選手は笑顔であった。

## 「時の階段」に想いをこめて



館の2階に設けられている「時の階段」

今年もこの季節がやってきた。元旦、桂浜の龍馬像前に届いた龍馬への年賀状をタイムカプセル「時の階段」へ封印する季節が。龍馬が脱藩した日に合わせて毎年3月24日(ちなみに、龍馬が脱藩したのは文久2年(1862)3月24日)年賀状封印式を行っている。今年も全国各地から約300枚の想いのこもった熱い年賀状が龍馬へ届けられた。

この龍馬への年賀状封印式も今年で早6回目を迎える。第1回目の封印式は2010年。あと3年もすれば、記念すべき第10回目の開封式が行われる。10年間眠っていたものが封印を解かれる瞬間は想像するだけでワクワクする。かく言う私も途中からはなるが、龍馬へ年賀状を何枚も送っており、今、その年賀状は「時の階段」に封印されている。龍馬さんへの年賀状？それは一体何？と疑問を持たれる方もいるかもしれない。少しだけご説明すると、ポータルサイト「龍馬街道」の実行委員会と高知県立坂本龍馬記念館がコラボし、2009年より開催するもので、龍馬への熱い思いや誓い、そして10年後の自分や大切な人へ熱いメッセージをしたため龍馬に送ってもらおうという思いで始まった企画だ。もちろん、龍馬へ送る年賀状なので宛名は「坂本龍馬様」となっている。毎年1月1日に「龍馬年賀状配達式」を桂浜龍馬像前で開催し、みなさんの想いのこもった年賀状を龍馬へ届けている。そして、その想いは今年も「時の階段」へこめられた。タイムカプセル「時の階段」は高知県立坂本龍馬記念館2階にモニメント形式として展示している。ぜひ、記念館へお越しの際はご覧いただきたい。

西本 有里

## ■海見える・ぎやらりい、平成27年度の展開は

龍馬生誕180年の今年度、“海見える・ぎやらりい”は2009年11月にオープンして以来、100件の催し物を超える年となる。

最初は、龍馬生誕180年記念事業推進委員会主催の「龍馬像米寿記念写真」展を6月末まで開催する。この展覧会は昭和3年に建立された桂浜の龍馬像が今年米寿を迎えるため、龍馬像を題材とした写真を一般公募して展示する写真展である。全国からどのような写真が集まって来るか楽しみである。

7・8月は「幕末の志士人気ベスト10」展。記念館のアンケートにあるお気に入りの人物の集計結果をパネル写真で展示する恒例の展覧会であるが、今回は新しい試みとして「現代に志士たちが生きていたら、何をしている!？」をイメージして楠本剛氏が描いたイラストと写真で表現する。宇宙飛行士の龍馬や大学教授の勝海舟など、想像はどんどん広がりがワクワクする展覧会になりそうだ。

10月は毎年8月15日に開催される「終戦記念日に誓う!第3回夏休み子ども・龍馬フォーラム」報告展である。今年のテーマは“日本のせんたく”。子ども達の生き生きとした言葉に注目している。

11月は今回で5回目となる「百花龍乱V」楠本剛氏の作品展である。毎年色々な工夫をされている楠本氏。今回も更なるパワーアップを期待している。



2015年1・2月「シェイクハンド龍馬像と握手!!写真」展



“2014年5・6月江本象岳氏展覧会”

新春1・2月は日本画家、江本象岳氏の「龍馬絵伝」展である。龍馬の生涯を10点の日本画で書き切る大作だ。龍馬を始め様々な表情をした人物は、今にも画面から出てきそうな描写である。皆様に見て頂ける日が待ち遠しい展覧会である。

最後は「第5回高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会パネル」展となる。“海見える・ぎやらりい”は、海を見ながら作品を鑑賞して頂けるスペースにおいて、一般の作家の方々が「龍馬」または「龍馬の世界」をイメージ・表現できる空間として提供してきた。リニューアルを控え、新しい風も吹き込みながら、さらに充実した楽しめるぎやらりいを目指していきたいと思う。(7月以降の展覧会タイトルは〈仮題〉となります。) 中村 昌代

## ■楽しく歴史の“伝言”を 第4回県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会パネル展

“第4回現代龍馬学会パネル展”が残り後1か月になった。龍馬研究の専門家たちだけでなく、龍馬好きの皆さんが、自由な表現で多角的に龍馬を検証するパネル展は、肩がこらず楽しいと好評である。今回も、発表者は色々。

龍馬記念館、龍馬の生まれた町記念館からはそれぞれ学芸員が参加しているし、渡辺瑠海さんなどは“龍馬愛好家”とでも言えばよい、龍馬の理解者。今回はよさこい祭りに桂浜から発信している「桂浜・龍馬プロジェクトぜよ」チームのダンス曲「幕末カイドンジ(快男児)」の作詞に当たったエピソードを紹介している。

ほかの3人も、ジョン万、吉田東洋一族、龍馬の祖父のお話といった具合でバラエティに富んでいる。一見、パネル発表だけに文字が多く物々しく、難解と思われがちだがほんの一分足を止めて読んでみてください。発表者の独自の目線で捕えられた“龍馬”“幕末”“土佐”が垣間見え、中に引き込まれるでしょう。

### パネル発表

網屋喜行 「明治維新の変革と吉田東洋一族の生き方」  
植田 英 「龍馬のもう一人のお祖父ちゃんの墓所」  
森本琢磨 「上町人物列伝」

神谷良昌 「琉球に上陸したジョン万次郎」  
渡辺瑠海 「桂浜の夏～桂浜龍馬プロジェクトぜよ!」  
三浦夏樹 「龍馬は武力倒幕派か平和倒幕派か」

佐々木 恵



## 入館状況

2015年3月20日現在(開館以来8,483日)

- ◆総入館者数 3,651,358人
- ◆最多入館 (2010年5月2日) 6,686人
- ◆最少入館 (2004年10月20日、台風のため) 8人
- ◆2014年度最多入館(2014年5月4日) 2,668人
- ◆2014年度最少入館(2015年1月26日) 47人

## 編集後記

新年度(4月)から、いよいよ館のリニューアル構想が図面に姿を現してきた。本格的な博物館と、開放的なパフォーマンス館の二つが一つになった“遊び学習・研究博物館”とでも言おうか。高知一番の観光地桂浜から、“龍馬発信”である。胸が躍る。そのわくわく感が今回飛騰の下敷きになっている。そのせいか、筆者の皆さんの原稿出稿が締め切り前に順調である。日頃、遅れがちな筆者まで締め切り前の事前出稿ときた。出勤するとデスクの上に完全原稿。いや違った残念、一人だけ遅れているぞ!まあ、一人に免じて目をつぶるか。(モ)

館だより“飛騰”第93号(年4回発行)表紙題字:書家 沢田 明子氏

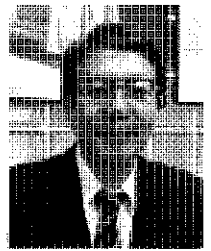
発行日 2015(平成27)年4月1日  
発行 公益財団法人高知県文化財団  
高知県立坂本龍馬記念館  
〒781-0262 高知市浦戸城山830  
TEL (088)841-0001 FAX (088)841-0015  
http://www.ryoma-kinenkan.jp  
「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00~17:00 年中無休

入館料 一般500円・高校生以下無料

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・  
戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名  
高知県・高知市長寿手帳所持者は無料

館だより「飛騰」は、郵送料のみのご負担でお届けいたします。ご希望の方は、92円切手5枚をお送りください



私のテーマ

永国先生に託されて (下)

## ジョン万に英語を習ったある姫君の秘められた生涯

小島 博明

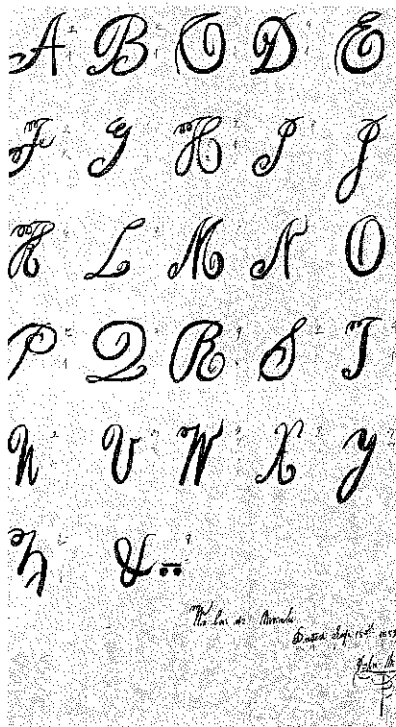
開国の条件を少しでも有利にという幕府の思いが、深尾屋門姫の人生を狂わせていく。幕府の裏作戦はペリーの懐柔であった。たまたま英語が話せたことから屋門姫に白羽の矢が立った。以後、屋門姫は「深尾」を名乗ること、土佐の国に帰ることも禁じられた。アメリカから帰国したジョン万次郎が日本語を忘れていたことから、彼に日本語を思い出させるプロジェクトに参加し、逆にジョン万に英語を教わりマスターしたのが仇になった。

遅かった「紅葉賀」(蒸気船)

その後屋門姫は「深井加尾」と改名する。やがて加尾はジョン万改め「中濱万次郎」が幕臣となり「咸臨丸」でアメリカに行ったとの噂を聞いたりするうちに、自分が外国に憧れていた昔を思い出した。身体が火照るほどの記憶だったらしい。その思いが加尾を次の行動へと駆り立てて行く。なんと当時、西洋文明花咲く長崎をターゲットに、それも丸山遊郭出入りの外人相手専用の芸妓置屋の経営であった。言葉が通じないためにいさかしの絶えないその社会で、自らの語学力を生かすためであった。だが、心底には深尾

家に対する反発心があったと思われる。

美しく聡明な加尾が、英国人のオールトやグラバーらと親交を深めていくのには時間はかからなかった。加尾は彼ら商會と取引各藩との売買契約に立ち会い、次第に信頼を得るとともに増々英語力にも磨きがかかり、契約書の作成ができるまでに上達していった。慶応に入ると、あの、河田小龍に影響を受けたという。坂本龍馬や近藤長次郎ら亀山社中の仲間と出会った。グラバーを紹介するとともに取引に欠かせぬ契約書の大切さを教えた。それだけ契約上



ジョン万次郎のアルファベット(複製)

のもめごとが多かったに他ならない。

やがて懐かしい中濱万次郎、また、土佐藩参政となった後藤象二郎と再会する。彼らは貨殖局、開成館の長崎出張所(土佐商會)などの開設運営が目的の

長崎進出である。土佐藩の狙いは特産の樟脳等売り、一方船や武器を購入する。「富国強兵」は吉田東洋以来の目標であった。加尾は後藤にボードインやオールトを紹介した。また、「亀山社中」を土佐藩の下部組織にするように薦めた。龍馬は長州や薩摩に多くの人脈を持つばかりでなく、海軍操練所で鍛えた操船技術、それになんといつても河田小龍仕込みの先見の明を持った商才は抜けているのだ。加尾から話を聞いた後藤は大きくうなずいたという。それがのちの後藤、龍馬の「清風亭会谈」につながり「亀山社中」

は土佐の海援隊となるわけである。

また加尾は「いろは丸事件」の成り行きを見守っていた。御三家紀州藩を相手に、一步も引かず渡り合う龍馬の胆力に感心した。そこで、龍馬に船を贈る

うと思いついたというから、加尾の懐の深さも並大抵ではない。加尾は土佐のために貯めていた大金を投じオールトに蒸気船の発注をした。蒸気船「紅葉賀」は明治二年に完成する。しかし、龍馬がこの船を見ることはなかったのは言うまでもない。

「焚くときは・・・」

さらに、加尾の行動はスケールを増していく。東京の吉原遊郭に妓楼を経営する。戦で傷ついた子女の救済のためである。戊辰戦争で深尾一族は大活躍をする。その一方で旧幕府軍にいた東北諸藩の子女が悲惨な運命をたどる。多くの子女が吉原に売られた。加尾はその子女の救済を考えた。自らの数奇な運命がオーバーラップする。弱者の目線である。加尾は晩年吉原遊郭内に句碑を建立した。

「焚くときは 同じ落ち葉の紅葉かな」

その時代と加尾の思いが切々と伝わってくる一句である。ただ、句碑は関東大震災で消滅したと伝わる。(終わり)

注、深井加尾さんのご子孫をご存じの方はご報下され幸いです。

# 話題人 インタビュー

## 坂本龍馬家5代目 坂本寿美子さん

# 「父も龍馬も尊敬しているわ」



嫌いなものや好きなものって他にありませんか。

私はお人形作りも好き。まだまだやりたいことがあるわね。

嫌いなものや

好きなものって他に

ありませんか。

「龍馬」を生きた「4代目 坂本直道」展は3月末で終了した。

戦後70年。日米開戦回避に向けて独自の反動行動を起こした直道の生涯は、世の中が揺らいでいる今だからこそ、深く私たちの胸を打つ。

龍馬の跡である坂本龍馬家は明治4年(1881)、朝旨によって興され、現在6代目に至っている。このたび4代目の直道を龍馬と重ねてご紹介することによって、両者の生き様がより鮮明になったと思う。

そんな二人を一層浮き上がらせてくれるのが、坂本直道の長女で5代目の寿美子さん。大正10(1921)年7月生まれ93歳。高齢のため東京近郊の病院に入院中であるが、お元気で過ごされている。

満州に生まれ、8歳でフランス・パリに移住。19歳で帰国するが、日本は太平洋戦争へと進んでいく。多感な時代に暮らしたフランスはいまだ寿美子さんの記憶、思考、生活、行動から消えることはない。愛するご両親のことも同じである。

今、早く寿美子さんに聞いておかなければならない――。

そんなにはやる気持ちと同時に、深く生きる寿美子さんのファンとして、再会を愉しみに、ひな祭前に出かけた。

ファイギュアスケートでオリンピック候補に

お久しぶりですね。お元気ですか。寿美子さんとお話をしたいと思って、高知の龍馬記念館から来ました。

あら、そう。いいわよ。でも、私は龍馬のことは知らないわよ。  
私？私は元気でやっていますわ。帰ったら、テニスをしたいと思っていますわ。まあ、缶コーヒーでも飲みましょう。

――寿美子さんお気に入りの缶コーヒーですね。わあ、ブルタブも簡単に開けられるんですね。さすが、スポーツで鍛えられただけありますね。

そうですね。スポーツは好きよ。6歳ごろだったかしら。向こうに、日本から何人かの医者勉強に来っていたの。その頃体の弱かった私をその医者に診せ



スケートに熱中した10代の頃＝パリで

より年上だったし、戦争が始まったから学校へ行けなかった。だから学歴がないの。学校時代の友だちがいない。学校は嫌だったからよかったですね(笑)。

好きなことを自由に楽しんで

――学校が嫌いですか。龍馬も学校は嫌いだっただけですよ。頭は悪くないと思えますけどね。寿美子さん勉強は好きでしょう。

龍馬も学校が嫌い？へんなところが似てるのね(笑)。  
そう。もっと勉強したいわね。日本語は苦手だから、フランス語、ドイツ語、英語をもっと勉強したい。外務省や大使館の子どもたちは親の転勤でいろいろな国に行くので、4か国から6か国語をしゃべれるのは当たり前なの。母の話では、私と母は父より後に、(シベリア)鉄道で1カ月くらいかけてフランスに行つたの。その時にはロシア語を話していたらしいけれど、パリに行つたらすぐ忘れちゃった。編み物や手芸もしたいわね。もつとも刺繍や手芸は母の方が上手だけれどね。母はおしゃべりで社交的。はつきりした人ね。父にもはつきり意見をいうし。

私はお人形作りも好き。まだまだやりたいことがあるわね。

嫌いなものや

好きなものって他に

ありませんか。

候補にまでなったわ。  
――オリンピックク？昭和10年代初めですわね。すごい。フランス代表ですか？行かれたんですか？

――オリンピックク？昭和10年代初めですわね。すごい。フランス代表ですか？行かれたんですか？

私は日本人だから、フランス代表ということは問題になつたわね。でもね、世論が私を認めたの。どんな人も本をたどればいろいろな国の血が混じっている。フランスに暮らしている以上フランス代表で何ら問題ないってこと。さすがフランスね。

オリンピックは行けなかつたわよ。戦争が始まったからね。でも、もし戦争がなくても、日本という国が私をフランス代表と認めなかつたかもしれないわね。  
日本に帰つてからは、テニスに転向。好成績を残したわ。

――軽井沢では、ご近所の正田美智子さん(美智子皇后)にテニスを教えられたとお聞きしています。

――そうだったかしら。忘れたわ。戦争は絶対ダメ！

――寿美子さんは、さっぱりしていますね(笑)。  
そう。わが家はこだわらないの。世の中と自分を隔てない。世の中にえげつて(威張つて)いる人はたくさんいる。パリにも軽井沢にも、わが



さっそうとフランス旅行

家にはいろんな人がやってくる。肩書や身分の偉い人もね。  
でもどんな偉い人であっても、ペコペコしたり、お世辞を言ったりなんかしない。逆に社会的に身分の低い人だって普通に接するのね。だから悪口を言われることもある。父なんか何を言われても平気よ。父は抵抗しないけど、相手はいい気になつて父を攻撃する。それでも平気。父に会つたことをええばる人もいたけど、父はそんな人も相手にしなかつた。だから、私も同じよ。

――それにしても、戦争は大きな影を落としていますね。

戦争は怖いわよ。私は第二次世界大戦ポーランド侵攻後フランスでも田舎に逃げたのよ。どこの国の人でもどんな戦争でも戦争は絶対ダメよ。(日米開戦後の)戦争中は軽井沢にいたわ。近所には鳩山(二郎)さんたちがいた。しようちゅうわが家に来てもらったわ。鳩山さんには畑仕事を習ったりしたけれど、父は下手だったわ。母も忙しかつたわね。お客様の相手もしないといけないし。私はフランスで学校へ行かなかつたけれど、日本に帰つても他の子ども

――尊敬しているわ。父と同じように。今でもこれだけ多くの人が慕っているというところは、あの幕末という時代に世間のため、日本のためにやつたからよ。自分のためじゃない。偉いよ。だから(後世に)残るのは当たり前ね。

――寿美子さんは数年前に骨折して以来、車いすを使われているが、動作は機敏だ。病院の談話コーナーでの会話は弾んだ。1世紀近い記憶の糸はしっかりとつながっていると感じた。まだまだ話は続きそう。これからでもできる限り、寿美子さんの「お話」を聞き続けていくつもりである。

坂本 寿美子(さかもと みすこ)

坂本龍馬家5代目  
大正10(1921)年大連生まれ、関東在住。  
父・坂本直道、母・(小高)万寿の長女。  
父は南満州鉄道(満鉄)ヨーロッパ所長として11年間パリ勤務。父方の祖父は自由民権家坂本直實、母方は岡山の医師の家系、10代をパリで過ごす。ヨーロッパで第二次世界大戦が始まり、最後の引き揚げ船で帰国。フランスではファイギュアスケート、帰国後はテニス選手として活躍する。エールフランス、伊勢丹に勤めた。居住は都内だが、戦時中から現在まで軽井沢の別荘暮らしは長い。



インタビュー  
前田 由紀枝  
(まえだ ゆきえ) 現代龍馬学会理事  
高知県立坂本龍馬記念館学芸主任



エールフランス時代＝オフィスで

――寿美子さんの日本語は確かだと思えますけどね。坂本家の風土ってどんなものですか？

私の日本語は母のおかげね。父は流ちょうなフランス語、英語、ドイツ語を話すけれど、母は日本語以外使わなかつた。言葉だけじゃなく行儀作法にも厳しかつたわね。素晴らしいセンスの持ち主だったしね。父は子ども時代、継母とうまく行かなくて不幸だったから、家の中では母がリードしている感じだったわ。わが家は三人がお互いを干渉しないの。(私の世代では)変わった家庭環境だったと思うわ。

私は外国育ちのせいかな、おひなさまのような古い(日本の)ものに馴染めない。自分の国という感覚があんまりないの。中途半端な人間よね。

――龍馬は日本のためにいいことをした

――180年。龍馬のことをしつと思いま

# 「海援隊商事印」

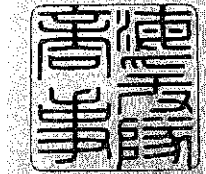
宮川 禎一

京都国立博物館の収蔵品に「海援隊商事秘記」という名前の文書がある。国の重要文化財だ。長い巻物の後半部に貼り込まれているもので、慶応三年の商業記録、たとえば丹後田辺藩との商業協定文書や長崎で外国商人からライフル銃を購入した記録がのっている。

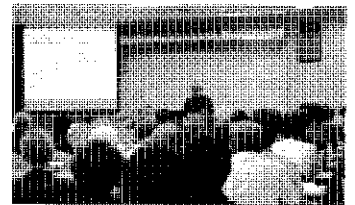
学芸員としてこの巻物の取り扱いは特に気をつけている。なぜならば「海援隊商事印」という印文が付箋のように文書に貼り付いているからだ。巻物を注意深く開け閉めしないと印文に折れ目を付けてしまう。

この印の文字はなかなか素晴らしいもので、以前から「ひよっとして」とは思っていたのだが、数年前に博物館にいられた長崎の小曾根吉郎様とお話しし、さらに史料を見せていただいたので確信した。この「海援隊商事印」は小曾根乾堂が彫ったものだったのだ。龍馬や海援隊が長崎でお世話になっていた小曾根兄弟の長男にして豪商であった乾堂は篆刻家としても有名

だ。しかしそれまで彼の作例とこれとを比較することはなかった。小曾根様が博物館へお持ちになった「三条実美」印や「伊藤博文」印の押印見本と見比べたのだが印の外枠の線の細さや文字の特徴やパランスが完全に一致していたのだ。この「海援隊商事印」は現在でも会社印として充分に使えそうな優れた印文だといえよう。



海援隊商事印  
(京都国立博物館蔵)



日時：2015年(平成27年)5月23日(土)  
場所：国民宿舎「桂浜荘」地下大会議室  
総会9:00～、研究発表10:00～

研究発表：参加費無料・要申込(先着120名様)。  
懇親会：参加費5,000円・要申込

詳細は当館ホームページでも随時お知らせいたします。  
お申込み・お問い合わせは坂本龍馬記念館まで。

平成27年度 第7回現代龍馬学会 総会・研究発表会  
テーマ 「龍馬生誕180年・原点再考」

今年に「龍馬生誕180年」という、龍馬ファンのみならず龍馬記念館、当学会にとって大切な節目の年、今こそ様々な形で“龍馬発信”をしていかなければならない時です。龍馬や関連人物、文化等に焦点をあて、独自の視点で発表し、7回目となる研究発表。基調講演は「坂本龍馬が築いた日本人のプライド」と題して、ノンフィクション作家の小松成美氏が、憧れの人物、龍馬について熱く語ります。その後、龍馬記念館の学芸員を含む6人の先生方がそれぞれの専門分野で解説発表を繰り広げます。ぜひ会場で「龍馬スピリッツ」を感じていただければ幸いです。 佐々木 恵

**【基調講演】**  
こまつ なるみ  
小松 成美 氏 ノンフィクション作家・兵庫県立大学客員教授

## 「坂本龍馬が築いた日本人のプライド」


■小松成美さんよりコメント

この度は、第7回現代龍馬学会基調講演にお招き頂き誠に有り難うございます。高知の方々、龍馬を敬愛し尊敬する方々が集う現代龍馬学会に参加させていただきまことに、大きな喜びと緊張を感じております。

私にとりまして、坂本龍馬は、生涯の憧れの人物であります。龍馬の生き方を思うたび、日本人としての誇りを喚起させられます。

基調講演という大役を与えて頂いたこと、そして土佐の地で皆様にお目にかかれまことを、心から感謝申し上げます。 小松成美

■小松成美さん紹介



**小松 成美** (こまつ なるみ)  
ノンフィクション作家  
兵庫県立大学 客員教授

1962年2月25日神奈川県横浜市生まれ。  
専門学校で広告を学び、1982年毎日広告社へ入社。その後、放送局勤務などを経て、1990年より本格的に執筆を開始する。  
主題はスポーツ、映画、音楽、芸術、旅、歴史など多岐にわたる。情熱的な取材と堅い筆致、磨き抜かれた文章にファンも多い。2014年4月より、兵庫県立大学リーディング大学院にて、客員教授を務める。  
2014年6月、高知県観光大使就任。近書に「仁左衛門恋し」(徳間文庫カレッジ)がある。

- 【発表者】**
- しばさき よしひろ 柴崎 賀広 氏 現代龍馬学会員 世界龍馬染校主宰 「風頭・龍馬像からのメッセージ」
  - つばき たくま 森本 琢磨 氏 高知市立龍馬の生まれたち記念館学芸員 「高知市上町における龍馬顕彰の歴史」
  - なづきのりこ 鈴木 典子 氏 池道之助5代目 「幕末長崎での出来事から—池道之助日記に観る—」
  - つばき たくま 椿原 庸夫 氏 現代龍馬学会員 「日本一の龍馬像を建てた若者たち」に学ぶ
  - みや えいじ 宮 英司 氏 高知大学非常勤講師—宮幼稚園長 「坂本龍馬は教科書においてどのようにとりあげられてきたか」
  - かめお みか 亀尾 美香 氏 高知県立坂本龍馬記念館主任学芸員 「大石田蔵の幕末・明治」

高知県立坂本龍馬記念館 TEL (088) 841-0001 FAX (088) 841-0015  
〒781-0262 高知市浦戸城山 830 http://ryoma-kinenkan.jp